

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社フィル	代表者	高橋 昌美	法人・事業所の特徴	地域に開かれた事業所で、ピアノのあるカフェを併設しています。暮らしを支え、想いを尊重し、理解し、当たり前の日常が送れるようにベストを尽くしています。
事業所名	小規模多機能クオリア	管理者	市川 智也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者、家族のニーズを理解し、連絡ノート、アセスメント、ケアプランでサービス開始前に情報収集を行い、根拠に基づいたチームケア実践を目指していく。	職員によってバラツキがある。個々のケアになってしまいケアの統一が図れていない。会議で情報共有を行っている。	自己評価に取り組んでいることは確認できた。	ケアプランの課題分析の結果と総合的な援助の方針を把握する
B. 事業所のしつらえ・環境	新型コロナウイルス感染症予防・研修を継続する。職員間で積極的な意見交換を行い、業務改善を行う。	感染症予防・研修を継続して行っている。職員間で意見交換を行っているが、業務改善までは行えていない。	開放的な環境はできている。不快な部分はない。感染症予防を行っていた。	感染症予防・研修の継続 災害時などの物品の位置、使用方法の把握
C. 事業所と地域のかかわり	大規模行事は実施できないが地域住民には認知されており、交流・関係づくりを継続していく。インスタグラム開設、ホームページリニューアル予定。	地域サロンに参加し、地域住民との交流を図っている。地域を巻き込んだイベントなどは行えていない。	挨拶などは出来ている 地域のイベントに参加している。	地域住民を招いてイベントを行う

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	フォーマル・インフォーマルサービスを利用し柔軟な支援を継続する。	地域資源を把握できていない。インフォーマルサービスをあまり使えていない。	利用者以外の地域住民と関わっている	インフォーマルサービスの情報を集めて、閲覧できるようにする
E. 運営推進会議を活かした取組み	新型コロナウイルス感染状況を把握しながら運営推進会議を実施する。	運営推進会議の再開。	運営推進会議で取り組みがわかりやすく説明されている。	運営推進会議の継続。運営推進会議後の資料の配布。
F. 事業所の防災・災害対策	防災士による専門知識を用いて実践的な対策マニュアル作成・研修を実施する。	消防立ち合いのもと、避難訓練を実施した。BCPの見直し、評価を定期的に行っている。	事業所の防災計画を把握できていない。準備はしている様子。	事業所の防災計画の見える化、地域への掲示、配布